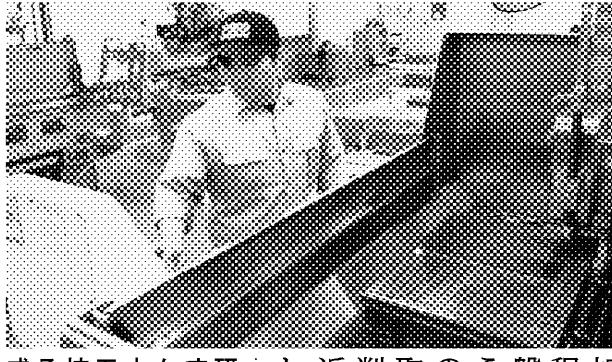


プラスエンジニアリング（東京都豊島区、
鈴木重人社長）が、新入社員を職業能力開発
大学校に就学させ、製造現場の即戦力に育成
している。今春、1期生が卒業し、早速、工
場の肝となる研削工程に着任した。会社が学
費や生活費を全額負担している点も好評で、
採用にも良い効果が出ている。

（東北・北海道総局
長・大橋修）

職能大就学、新人を即戦力に



すぐ復職し、
屬部品の微細
加工を扱う工
程で平面研削
盤などを扱
う。事業所長
の浅野謙一郎
取締役は「研
削は仕上げに
近く、やり直
しができない
する菅原さ
ん。東北職能
大では機械系
モノづくり競
技会で優勝す
るなど優秀な
成績を収めた
在学中は自宅から通
えないため、会社がア
パートを借り、食事代
や水道光熱費なども負
担。給与も支給しつつ
学費などを全額まかな
つた。ただ、補助金が
出るため会社側の支出
は年間数十万円で済ん
菅原さんも「入社1
年目は何をつくってい
るのかすら分からなか
った。2年学び戻つて
きて作業してみたら、
実際はこうなつていた
のかとよく理解でき
た」と勉学の成果を誇
る。

（コンピューター利用）うだ。驚く。
制）に入学。生産技術で「機械加工の基礎からCAD/CAM（菅原さん）と満足そ
た。最初は不安だったが、行って良かった」うだ。

プラスエンジ 学費・生活費全額負担

だといふ。

だという。こうした就学支援が評判を呼び、「ここ数年は新卒採用でも大きなインパクトがあった」（浅野取締役）。工場ではそれまで年1人採れるかどうかだった採用状況が好転。23年4月は新卒で3人が入社。うち2人が2期生としてこの春、東北職能大に進学した。「2年後に卒業したら同様に研削工程に従事してもらいたい」（同）と期待する。この春も新卒で3人が入社し、うち2人を進学させる予定。その後も、人材育成の重要な施策として継続する意図だ。